

# 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
内科学									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)教科書の内容を主軸とした講義形式で実施する。板書の筆記のみでなく、講義のポイントをメモにして整理する。代表的な徴候については、実際に体現できるように工夫をする。</p>									
<p>〔到達目標〕 内科疾患の主要なものについて、簡潔に説明ができる。余裕があれば、巻末のセルフアセスメントも実施する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 内科学(第4版第1刷:2020. 11. 15) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院					〔準備学習・時間外学習〕 教科書を音読できるようにする。個別の項目を丸暗記しようとせず、いくつかの項目を関連付けた文章を作成して理解し、説明できるようにする。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	1. 内科学とは			内科学にとってのリハビリテーションの意義を説明できる					
2	2. 内科的診断と治療の実際 : 診療録			問題指向型診療録(POMR)を説明できる					
3	診察法 : 視診、触診、打診、聴診			医療人として真摯な診察ができ、所見を取れる					
4	臨床検査、内科的治療			検査、投薬について基本的な説明ができる					
5	3. 症候学			各種徴候の生理・病理と主な原因疾患をまとめる					
6	4. 循環器疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめる					
7	循環器疾患(2) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
8	中間試験			①～⑦回目までの内容で出題する					
9	循環器疾患(3) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
10	5. 呼吸器疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめる					
11	呼吸器疾患(2) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
12	6. 消化管疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめる					
13	消化管疾患(2) : 各論			各疾患について、簡潔に説明できる					
14	7. 肝胆膵疾患(1) : 総論			解剖・生理を医学的観点でまとめ、各疾患について、簡潔に説明できる					
15	期末試験			①～⑭回目までの内容で出題する					
〔評価について〕 評価 中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に則る。					〔特記事項〕				

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 理学療法士科Ⅱ部	<b>学年</b>	2	<b>開講区分</b>	前期	<b>担当教員</b> 佐藤 俊生			
<b>授業科目名</b>	<b>必修・選択</b>	<b>必修</b>	<b>授業形態</b>	<b>講義・実技</b>	<b>時間数(単位)</b>	30 (2)	<b>授業回数</b>	15
障がい者スポーツ論								
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          スポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援するための知識を習得する。また中級パラスポーツ指導員資格を有する理学療法士が授業を行うことで、理学療法士として障がい者のスポーツ活動が支援できるよう、知識、技術を習得する。</p>								
<p>〔到達目標〕          パラスポーツに関する制度や障がい者の特徴、安全管理などについて学習するとともに、実際のスポーツに参加し、障がい者の方と交流を図る。そして未経験や初心者の障がい者に対してスポーツ活動への参加を促すことができる。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕				
教材)授業内で配布 参考文献)障がいのある人のスポーツ指導教本(ぎょうせい、R2) 障がい者スポーツ指導教本(ぎょうせい、H28)				授業で実施した内容に関して自分の意見を述べられるように復習すること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	「しょうがい」とは何か パラスポーツに関する諸施策			各障がいに関する法律や障がい者福祉施策とパラスポーツに関する施策を説明できる。				
2	コミュニケーションスキルの基礎			パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキル・ソーシャルスキルを説明できる。				
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質			スポーツにおけるインテグリティを理解し、指導者に求められる資質を説明できる。				
4	パラスポーツの意義と理念 パラスポーツの意義や理念について理解する			パラスポーツの意義を説明できる。				
5	安全管理、応急処置について学習する			安全管理、応急処置の手順を説明できる。				
6	障がい者の基礎知識1(肢体不自由、内部障がい)			肢体不自由、内部障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
7	障がい者の基礎知識1(視覚障がい、聴覚・音声言語障がい)			視覚障がい、聴覚・音声言語障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(ボッチャ)			実際に競技を体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。				
9	障がい者の基礎知識(知的) 知的障がいと精神障がいについて理解する			知的障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
10	障がい者の基礎知識(精神) 精神障がいと精神障がいについて理解する			精神障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
11	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(シッティングバレーボール)			実際に競技を体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。				
12	パラスポーツ推進の取り組み			地域のハラスポーツ振興の現状について学び、地域で行われている教室や大会に参加する準備ができる。				
13	全国障がい者スポーツ大会の概要 全国障がい者スポーツ大会目的と実施内容について			全国障がい者スポーツ大会の目的・意義を学び、未経験者や初心者にとってのスポーツ参加の動機づけができる。				
14	道具について知ろう 義足、車椅子、杖、補装具			パラスポーツでよく用いられる用具を知り、スポーツ実施上の工夫を述べられる。				
15	パラスポーツの実際 当事者との交流			ハラスポーツを実際に行っている方との触れ合いを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性を説明できる。				
〔評価について〕 中間試験(レポート課題)40% 期末試験(レポート課題)40% 当事者との交流の課題 20%				〔特記事項〕				

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			佐藤 俊生
授業科目名	物理療法学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          ・各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握(評価)できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。</p>									
<p>[到達目標]          物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、温熱・寒冷・光線・水治などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。</p>									
[使用教材、参考文献等]					[準備学習・時間外学習]				
「物理療法学」(医学書院)					シラバスを確認しテキストの内容を事前に確認しておくこと。 授業後には実施内容について復習をすること。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1 4/3	オリエンテーション、総論(定義、種類、現状) 物理療法におけるリスク管理				物理療法の現状を説明できる。 リスクの種類やリスク管理について説明できる。				
2 4/10	温熱療法総論 温熱療法の基礎と生理学的作用 一般的な適応と禁忌				温熱療法の基礎的事項を説明できる。 一般的な温熱療法の適応と禁忌を述べられる。				
3 4/17	温熱療法各論1 ホットパック・パラフィン				ホットパック・パラフィンの基礎的事項を踏まえ実施方法を説明できる。				
4 4/24	温熱療法各論2 超音波療法① 基礎的事項、生体内作用				超音波の基礎的事項と生体内作用について説明できる。				
5 5/8	温熱療法各論3 超音波療法② 適応・禁忌、使用方法				超音波の適応・禁忌事項を踏まえて実施方法を説明できる。				
6 5/15	寒冷療法総論、寒冷療法の実際				寒冷療法の生理学的作用や実施方法を説明できる。				
7 5/22	水治療法総論 各論(部分浴、全身浴、水中運動療法)				水治療法の基礎を説明できる。各種の実施方法を説明できる。また、水中運動療法の注意点を説明できる。				
8 5/29	中間試験(1～7回目の内容) 復習				ここまで扱った内容を説明できる。				
9 6/5	光線療法総論 光線療法各論1 紫外線療法				光線療法の基礎、紫外線療法の特徴を説明できる。				
10 6/12	光線療法各論2 赤外線療法、レーザー療法 高周波療法(超短波療法、極超短波療法)				赤外線療法、レーザー療法、高周波療法の基礎的事項と実施方法を説明できる。				
11 6/19	光線療法各論2 赤外線療法、レーザー療法 高周波療法(超短波療法、極超短波療法)				赤外線療法、レーザー療法、高周波療法の基礎的事項と実施方法を説明できる。				
12 6/26	電気刺激療法総論①				電気刺激療法の基礎的事項が説明できる。				
13 7/3	電気刺激療法総論② 電気刺激療法各論1 治療的電気刺激(TES)①				電気刺激療法の基礎的事項、中枢神経障害に対する治療的電気刺激(TES)について説明できる。				
14 7/10	治療的電気刺激(TES)②				末梢神経障害やその他の障害に対する治療的電気刺激(TES)について説明できる。				
15 7/17	まとめ、期末試験(9～14回目の内容)				これまで扱った内容について疾患・症状に応じて適切な実施方法を選択し説明することができる。				
[評価について] 中間試験 50% 期末試験 50%					[特記事項] 授業進行に応じて確認テストを実施する(成績評価には含まない)。				

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			佐藤 俊生
授業科目名	理学療法基礎科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          理学療法に関係のある現象を通じて科学の基礎的な内容(数学・理科)を理解する。          理学療法士として必要な物理学, 生物学, などの基礎的な科学を学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕          理学療法に関連のある科学(数学・理科)の内容を確認し、理学療法学の理解に役立てる。</p> <p>〔使用教材、参考文献等〕          配布資料</p> <p>〔準備学習・時間外学習〕          授業後には実施内容について復習をすること。</p>									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	【オリエンテーション】授業の目的 【科学的態度について】グループワーク	授業の目的、科学的態度について説明できる。							
2	【情報収集】文献検索、インターネット利用上の注意	インターネットでの情報収集の方法、利用上の注意点について説明できる。							
3	【数字を扱う】① リハビリテーションのコスト	医療保険で理学療法を実施することで生じるコストを計算できる							
4	【数字を扱う】② 神経伝導速度、強さ時間曲線	神経伝導速度、強さ時間曲線に関する計算ができる							
5	運動強度 心拍数	心拍数と運動強度に関する計算ができる(課題あり)							
6	歩行について① 歩行に関わる数値	歩行に関わる数値について説明できる							
7	歩行について② 歩行に関わる数値を算出してみよう	歩行に関わる数値を計算できる(課題あり)							
8	エネルギー① 消費エネルギー	運動量、消費エネルギーの計算ができる							
9	エネルギー② 摂取エネルギー	摂取エネルギーの計算ができる(課題あり)							
10	【力と運動】① 力とは、てこ	力、てこについて説明できる							
11	【力と運動】② ベクトル、ベクトルの合成・分解	ベクトルについて説明できる ベクトルの合成・分解ができる							
12	【力と運動】③ 力のつり合い	力のつり合い、モーメントについて説明できる							
13	【力と運動】④ 重心とは	重心位置を求めることができる							
14	まとめ、これまでの復習	ここまで扱った内容について振り返り、理解を深める							
15	期末試験・振り返り	試験を通じて自分の理解度を確認する							
〔評価について〕 課題 期末試験				〔特記事項〕 授業進行に応じて確認テストを実施する(成績評価には含まない)。					

## 2023 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		整形外科学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇しうる整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることができるよう運動器疾患の診断・治療・後療法・予防法について学習する。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>各整形外科疾患を、症候・疾患別、頸部以下の各部位の疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。</p>											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
標準整形外科学:医学書院						できるだけ教科書を通読すること。授業の内容・小テストをしっかりと復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	整形外科の基礎科学:骨の構造・生理・化学、骨の発生・成長・維持、骨の病態生理					骨の構造から病態生理を理解できる					
2	関節の構造と生化学、関節の病態生理、筋・神経の構造・生理・化学及び病態生理					関節・筋・神経の構造と病態生理を理解できる					
3	整形外科的現症の取り方・検査					整形外科における診察法・検査を理解できる					
4	保存療法、手術療法					整形外科における一般的な保存療法・手術療法を理解できる					
5	関節リウマチとその類縁疾患					疾患の症状・病態・診断における一連の流れを理解できる					
6	変形性関節症、四肢循環障害と阻血壊死性疾患					疾患の症状・病態・診断における一連の流れを理解できる					
7	先天性疾患					先天的な骨・軟骨の形成・発育異常による全身骨格の形態的・構造的異常を理解できる					
8	代謝性骨疾患					骨粗鬆症をはじめとする骨細胞や組織の代謝の異常が病態の主体となす疾患を理解できる					
9	骨腫瘍					骨に発生する良性・悪性の腫瘍について理解できる					
10	軟部腫瘍、神経・筋疾患					軟部腫瘍、中枢神経・末梢神経・筋に生じる疾患について理解できる					
11	肩関節					肩関節から引き起こされる疾患の病態を理解できる					
12	肘関節					肘関節から引き起こされる疾患の病態を理解できる					
13	手関節・手指					手関節・手指から引き起こされる疾患の病態を理解できる					
14	頸椎・胸郭					頸椎・胸郭から引き起こされる疾患の病態を理解できる					
15	テスト・まとめ					テストにより効果判定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は学則規定に準ずる。											

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			中村 陽市	
授業科目名		解剖学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <p>理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、内分泌系、末梢神経系、局所および体表解剖学についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。</p>												
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院、配布プリント</p>						<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。</p>						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	内分泌系					内分泌腺の位置とホルモンの名称及び作用を説明できる						
2	内分泌系					内分泌腺の位置とホルモンの名称及び作用を説明できる						
3	末梢神経系：脊髄神経					脊髄および脊髄神経の構造と機能が説明できる。						
4	脊髄神経：頸神経叢					頸神経叢の構成と機能を説明できる。						
5	脊髄神経：腕神経叢					腕神経叢の構成と機能を説明できる。						
6	脊髄神経：腕神経叢の枝					筋皮神経・腋窩神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。						
7	脊髄神経：腕神経叢の枝					正中神経・橈骨神経・尺骨神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。						
8	脊髄神経：胸神経、腰神経叢					胸神経・腰神経叢の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。						
9	脊髄神経：仙骨神経叢・坐骨神経					仙骨神経叢の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。						
10	局所解剖学と体表解剖学					頭頸部と体幹の局所解剖と体表解剖						
11	局所解剖学と体表解剖学					上肢の局所解剖と体表解剖						
12	局所解剖学と体表解剖学					下肢の局所解剖と体表解剖						
13	まとめ					内分泌系、中枢神経系を総括できる						
14	まとめ					末梢神経系、局所・体表解剖学を総括できる						
15	期末試験											
<p>〔評価について〕</p> <p>小テスト(3回)30点満点＋期末試験70点満点で59点以下を不合格とする</p>						<p>〔特記事項〕</p>						

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			田中 信一	
授業科目名		病態運動学		必修・選択	必須	授業形態	講義	時間数	30 (2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>各関節の動きを中心に基礎的運動学の知識を更に発展・統合し、臨床における諸現象との関連を理解する。各関節の機能的特徴は、人間の効率的な運動の理解や臨床での障害像の理解に繋がることを意識しながら受講してほしい。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。</li> <li>各関節の特徴と障害を関連づけることができる。</li> </ul>												
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版(電子書籍付) 南江堂</p>												
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)									
1	広義の肩関節の構造と機能		肩関節の構造を説明することができる。									
2	肩関節の安定組織、肩峰下空間、インピンジメント関節包内運動(転がり、滑り、軸回旋)		広義の肩関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。									
3	肩関節の構造と障害の関係性		肩関節の特徴と障害を関連づけることができる。									
4	肘関節の構造と機能、関節包内運動 肘関節の構造と障害の関係性		肘関節の関節包内運動を説明することができる。 肘関節の特徴と障害を関連づけることができる。									
5	手関節、手指の構造と機能 三角線維軟骨複合体(TFCC)、手のアーチ、手関節、手指の関節包内運動		手関節、手指の特徴および関節包内運動を説明することができる。									
6	手関節の構造と障害の関係性		手関節、手指の特徴と障害を関連づけることができる。									
7	脊柱・骨盤帯の構造と機能 脊柱の弯曲、腰仙角、腰椎の前弯、腹筋群、背筋群の特徴、椎間関節の動きの特徴		脊柱・骨盤帯の構造および機能の特徴を説明することができる。									
8	確認テスト 前半の振り返り		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。									
9	体幹・骨盤帯の構造と障害の関係性		脊柱・骨盤の特徴と障害を関連づけることができる。									
10	股関節の構造と機能、関節包内運動 姿勢戦略		股関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。									
11	股関節の構造と障害の関係性		股関節の特徴と障害を関連づけることができる。									
12	膝関節の構造・機能 screw-home movement、関節包内運動、大腿四頭筋と膝蓋骨の作用		膝関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。									
13	膝関節の構造と障害の関係性 足部・足関節の構造・機能 足関節の運動と腓骨の運動、		膝関節の特徴と障害を関連づけることができる。									
14	足部のアーチの特徴、ウィンドラス機構、関節包内運動		足部・足関節の構造および機能の特徴を説明することができる。									
15	期末テスト 後半の振り返り		病態運動学で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。									
<p>〔評価について〕</p> <p>小テスト、課題(20%) 確認テスト(40%) 期末テスト(40%)</p>				<p>〔特記事項〕</p> <p>小テスト(または課題)は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。</p>								



# 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						渡辺 寛 先生			
神経内科学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>リ現役医師による神経内科学では、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患を中心にその病態と診断を理解し理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来ている。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院					専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習				本科目の意義と概論を理解できる。				
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)				中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。				
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)				抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。				
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)				抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。				
5	神経症候を学ぶ 錐体路				意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。				
6	神経症候を学ぶ 錐体外路・小脳症状				意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。				
7	神経症候を学ぶ 感覚路1				感覚障害の分布と特徴を理解できる。				
8	神経症候を学ぶ 感覚路2				感覚障害の分布と特徴を理解できる。				
9	高次脳機能障害(失語・失行)				高次運動障害を理解できる。				
10	高次脳機能障害(記憶・認知)				高次運動障害を理解できる。				
11	高次脳機能障害(構音・嚥下)				高次運動障害を理解できる。				
12	神経学的診察				診察の方法が理解できる				
13	神経学的検査				検査方法について理解できる				
14	前期まとめ				神経内科学総論について理解できる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				



## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			島田 章則	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>理学療法士として医学的・科学的な総合的知識を得るとともに、病気の発生に関する普遍的細胞レベルの傷害や分子の異常を学習・理解する</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <p>疾患の病因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を学ぶ</p>												
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕						
標準理学療法学・作業療法学 病理学						毎回の授業で、理解度の把握を目的とした小テスト(5問:2問は当日の授業内容、3問は前回の授業内容から出題)を実施します。教科書の当該部分を読んでの予習および復習をしておくこと。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	病因、退行性病変、進行性病変					病因(外因、内因)、変性、萎縮、壊死、肥大、過形成、化生、創傷治癒(肉芽組織、瘢痕)を理解する						
2	代謝障害、循環障害					各栄養素(蛋白質、脂質、糖質)別代謝疾患、局所・全身循環障害を学習し理解する						
3	免疫(アレルギー、自己免疫疾患)					アレルギー性組織傷害(アレルギー反応)、自己免疫疾患の種類・特徴・例を学習し理解する						
4	炎症、感染症					炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症・感染症の種類、原因となる病原微生物を学習し理解する						
5	腫瘍					腫瘍の定義、悪性腫瘍の特徴、転移形式、発がんの原因・メカニズムを理解する						
6	老化、先天異常・奇形					加齢に伴う疾患、先天異常・奇形(遺伝子・染色体異常、疾患)を学習し理解する						
7	循環器(心臓、血管)の病理					心臓の構造・機能、先天性心疾患、狭心症・心筋梗塞、心筋症、動脈硬化症、動脈・静脈瘤を理解する						
8	呼吸器の病理					呼吸器の構造・機能、肺炎、肺うっ血・肺水腫、気管支の疾患、肺腫瘍を学習し理解する						
9	消化器の病理					消化器の構造・機能、胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓の炎症、疾患と腫瘍を学習し理解する						
10	神経系の病理					中枢神経系の構造・特徴、脳血管障害(脳梗塞、脳出血)、感染症、神経変性性疾患、外傷を理解する						
11	運動器の病理					運動器の構造・機能、骨・関節・筋肉の疾患(骨折、腫瘍、関節リウマチ等)とその特徴を学習し理解する						
12	泌尿・生殖器の病理					泌尿・生殖器の構造・機能、腎炎、糸球体病変、膀胱炎、前立腺疾患、生殖器感染症・腫瘍を理解する						
13	内分泌臓器、皮膚、感覚器の病理					内分泌の仕組み、各種ホルモンの分泌亢進・低下に伴う疾患、皮膚・眼・耳の構造と疾患を理解する						
14	造血器の病理					正常な造血、骨髄・リンパ節の構造と機能・疾患、貧血の機序、白血病・リンパ腫を学習し理解する						
15	期末試験					授業全体の内容のテストにより理解度の判定を行う。習得不十分なところを把握し、理解度を深める						
〔評価について〕						〔特記事項〕						
小テスト70点満点＋期末試験30点満点で、59点以下を不合格とする						毎回の授業で、理解度の把握を目的とした小テスト(5問:2問は当日の授業内容、3問は前回の授業内容から出題)を実施します。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	開講区分	前期	担当教員				
理学療法士科Ⅱ部		2			堀内 秀憲				
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
運動療法学Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕									
理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を現在も臨床業務を行っている教員が、理学療法を考え、行うなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。									
〔到達目標〕									
理学療法の中で中核となる運動学の基本的な知識を習得し、説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 株式会社メジカルビュー 配布資料									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 運動療法とは何か			理学療法とは何か、運動療法とは何か、リハビリテーションの中止基準について理解をすることができる					
2	関節可動域制限と組織の変化			関節可動域制限と組織の変化を知る					
3	損傷した組織の鑑別 損傷した組織の治癒を阻害する要因			組織学的特性から組織の鑑別ができるようになる 損傷した組織の治癒を阻害する要因を知る					
4	クリニカルリーズニング(ボトムアップとトップダウン)			クリニカルリーズニング(臨床推論)を知る					
5	姿勢・関節可動域改善			足関節背屈制限の原因について考える					
6	筋機能と運動療法			運動療法により筋機能がどう変化していくかを説明することができる					
7	関節可動域と運動療法			関節可動域制限が起こる理由を説明することができる 関節可動域拡大について説明することができる					
8	基本動作と運動療法 寝返り動作のバイオメカニクス			寝返り動作のバイオメカニクスについて説明することができる 寝返り動作の運動療法について、筋機能改善を主な観点として説明することができる					
9	協調性機能と運動療法			協調性に対する運動療法について説明することができる					
10	基本動作と運動療法 起き上がり動作のバイオメカニクス			起座動作のバイオメカニクスについて説明することができる 起座動作の運動療法について筋機能、関節可動域、協調性の観点から説明することができる					
11	バランス機能と運動療法			バランス機能に対する運動療法について説明することができる					
12	前庭機能と運動療法			前庭機能に対する運動療法について説明できる。					
13	基本動作と運動療法 起立・着座動作のバイオメカニクス			起立・着座動作のバイオメカニクスについて説明することができる 起立・着座動作の運動療法について筋機能、関節可動域、協調性、バランス機能、前庭機能の観点から説明することができる					
14	期末試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
15	まとめ			運動療法に関する全般的な考えを深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験はレポートや小テスト、中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
理学療法検査・測定法								鈴木広大			
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>理学療法士になるにあたって、必要な理学療法検査、評価を身に着ける。検査技術を身に着けるためには、時間を要するため、授業終了後はしっかりと復習を行うことが重要になる。また、リスク管理など安全な検査、評価が行えるように学習を進めることが重要になる。毎授業、しっかりと復習を行い、必要な知識を身につけるようにしてもらいたい。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>1) 理学療法検査や評価の正しい技術を学ぶ。 2) 理学療法検査や評価をなぜ行うのかを理解する。</p>											
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>リハビリテーション基礎評価学(羊土社)</p>											
回	〔授業概要〕						到達目標(できるようになること)				
1	脳血管疾患とは						脳血管疾患の病態や症状を理解する。				
2	脳血管障害の検査(ブルンストロームステージテスト)						ブルンストロームステージテストが実施できる。				
3	脳血管障害の検査(上田の12段階グレード、Stroke Impairment Assessment Set:SIAS)						上田の12段階グレード、SIASが実施できる。				
4	脳血管障害の検査(Fugl Meyer Assessment:FMA)						FMAが実施できる。				
5	感覚検査(表在感覚、痛覚)						感覚検査(表在感覚、痛覚)が実施できる。				
6	感覚検査(深部感覚、複合感覚)						感覚検査(深部感覚、複合感覚)が実施できる。				
7	筋緊張検査						筋緊張検査が実施できる。				
8	表在反射・深部腱反射(上肢)						表在反射・深部腱反射(上肢)が実施できる。				
9	深部腱反射(下肢)						深部腱反射(下肢)が実施できる。				
10	病的反射						病的反射が実施できる。				
11	バランス検査(座位バランス、立位バランス検査)						バランス検査(座位バランス、立位バランス検査)が実施できる。				
12	バランス検査(Balance Evaluation Systems Test)						バランス検査(Balance Evaluation Systems Test)が実施できる。				
13	バランス検査(functional balance scale)						バランス検査(functional balance scale)が実施できる。				
14	期末テスト						前期の理学療法検査測定法で学んだ内容をアウトプットすることが出来る。自分が理解している内容理解していない内容を理解する。				
15	テスト返却と復習						前期の理学療法検査測定法で学んだ内容を復習することが出来る。				
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は発表点と筆記試験で行う。 授業内課題(50点)期末テスト(50点)</p>						<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>					

# 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部 授業科目名 義肢装具学	学年 2 必修・選択 必修	開講区分 後期 授業形態 講義	担当教員 伊藤 敬志 時間数(単位) 30(2) 授業回数 15
【授業の学習内容と心構え】(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 義肢学及び装具学の概要から応用まで学ぶ。併せて実習などを通じ、将来臨床にて義肢・装具についての対応ができるよう最低限の知識を持たせることを目的とする。			
【到達目標】 国家試験における義肢・装具学分野に対応できるようにする。また、実務的なことにおいても最低限の知識を身につけるようにする。			
義肢装具学テキスト	【準備学習・時間外学習】 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。		
回	【授業概要】	到達目標(できるようになること)	
1	義肢・装具概論	義肢・装具の基本的知識を身につける	
2	下肢装具概論 SHB採型デモ	採型デモにより製作工程などを理解する	
3	装具力学概論	装具に必要なモーメントについて理解する	
4	足底装具 採型実習	足底装具の概念及び採型手技について理解する	
5	足底装具 採型実習	上記と同じ	
6	下肢装具概論	国家試験の問題について解説	
7	足底装具・靴型装具概論	国家試験の問題について解説	
8	中間確認試験 振り返り		
9	義足概論	義足の基本的知識を身につける	
10	下腿義足概論	下腿義足の種類などについて理解する	
11	下腿義足アライメント	下腿義足アライメントについて理解する	
12	大腿義足概論	大腿義足の種類や膝継手について理解する	
13	大腿義足アライメント	大腿義足アライメントについて理解する	
14	義足国家試験問題演習	国家試験の問題について解説	
15	期末試験 まとめ		
【評価について】 中間確認試験50% 期末試験50% トータル60%未満を不合格とする。		【特記事項】 再試験はレポート提出にて対応する。ただし、レポート内容が最低限の基準に満たない場合、不可とする。(コピーしただけ、解答のみ記入、解説なしなど)	

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			伊藤 晴雄	
授業科目名		内科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)教科書の内容を主軸とした講義形式で実施する。板書の筆記のみでなく、講義のポイントをメモにして整理する。代表的な徴候については、実際に体現できるように工夫をする。</p>												
<p>〔到達目標〕 内科疾患の主要なものについて、簡潔に説明ができる。余裕があれば、巻末のセルフアセスメントも実施する。</p>												
〔使用教材、参考文献等〕 内科学(第4版第1刷:2020.11.15) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院						〔準備学習・時間外学習〕 教科書を音読できるようにする。個別の項目を丸暗記しようとせず、いくつかの項目を関連付けた文章を作成して理解し、説明できるようにする。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	8. 血液・造血器疾患(1):総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる						
2	血液・造血器疾患(2):各論					各疾患について、簡潔に説明できる						
3	9. 代謝性疾患(1):総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる						
4	代謝性疾患(2):各論					各疾患について、簡潔に説明できる						
5	10. 内分泌疾患(1):総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる						
6	内分泌疾患(2):各論(1)					各疾患について、簡潔に説明できる						
7	内分泌疾患(3):各論(2)					各疾患について、簡潔に説明できる						
8	課題レポート					前期③④回目までの内容で出題する						
9	11. 腎・泌尿器疾患(1):総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる						
10	腎・泌尿器疾患(2):各論					各疾患について、簡潔に説明できる						
11	12. アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症(1):総論					免疫機構・生理を医学的観点でまとめる						
12	アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症(2):各論					各疾患について、簡潔に説明できる						
13	13. 感染症(1):総論					感染症病原体・予防対策を医学的観点でまとめる						
14	感染症(2):各論					各疾患について、簡潔に説明できる						
15	期末試験											
〔評価について〕 評価 課題レポート(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に則る。						〔特記事項〕						

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科 II 部 授業科目名 <p style="text-align: center; font-weight: bold;">物理療法学実習</p>	学年 2	開講 区分 後期	担当教員 佐藤 俊生
必修 ・ 選択	必修	授業 形態	実技・講 義
時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) ・各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握(評価)できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。			
[到達目標] 物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、電気刺激・牽引などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。各種物理療法の原理や生理学的作用を踏まえ、効果検証を実施し考察できる。			
[使用教材、参考文献等] 「物理療法学」(医学書院)		[準備学習・時間外学習] シラバスを確認し該当するページを事前に確認しておくこと。	
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)	
1	電気刺激療法各論2 機能的電気刺激(FES) 電気刺激療法各論3 TENS、疼痛とは	機能的電気刺激について説明できる。 疼痛の概念について説明できる。	
2	電気刺激療法各論3 経皮的電気神経刺激療法(TENS) 電気刺激療法各論4 干渉電流療法、特殊刺激法	経皮的電気神経刺激療法の基礎と実施方法が説明できる。干渉波療法やrTMS・tDCSについて説明できる。	
3	バイオフィードバック 牽引療法 総論	バイオフィードバック療法・牽引療法の基礎的事項が説明できる。	
4	牽引療法 頸椎牽引、骨盤牽引	頸椎牽引・骨盤牽引の実施方法が説明できる。	
5	徒手的療法1 徒手療法総論 関節モビライゼーション①	徒手療法の基礎、関節運動学の基礎を説明できる。上下肢の関節モビライゼーションを体験する。	
6	徒手的療法2 関節モビライゼーション②	上下肢の関節モビライゼーション	
7	徒手的療法2 関節モビライゼーション③ 軟部組織モビライゼーション①	上下肢の関節モビライゼーション・軟部組織モビライゼーションを体験し実施方法を説明できる。	
8	中間試験(1~7回目内容) 復習	ここまで扱った内容を説明できる。	
9	徒手的療法3 軟部組織モビライゼーション②	軟部組織モビライゼーションを体験し、実施方法を説明できる。	
10	物理療法体験 1(課題提出有) (ホットパック、パラフィン、超音波、光線、水治、牽引)	各療法の基礎を踏まえて機器の操作ができる。各療法の被治療感を述べられる。	
11	物理療法体験 2(課題提出有) (ホットパック、パラフィン、超音波、光線、水治、牽引)	各療法の基礎を踏まえて機器の操作ができる。各療法の被治療感を述べられる。	
12	物理療法体験(課題提出有) 対象者への適応	各治療法について実施方法を確認し、模擬患者に対して説明と治療を実施することができる。	
13	物理療法体験(課題提出有) 対象者への適応	各治療法について実施方法を確認し、模擬患者に対して説明と治療を実施することができる。	
14	物理療法の効果を検討1:オリエンテーション・計画作成	物理療法の基礎を踏まえ、物理療法の実施方法と実施前後の検査測定について計画できる。	
15	物理療法の効果を検討2:実習(期末課題レポート)	実際に物理療法を実施し、前後の変化を測定することができる。	
[評価について] 物理療法体験時の課題 40%(10%×4回(10、11、12、13回目)) 中間試験 30% 期末課題レポート 30%		[特記事項] 授業進行に応じて小テストを実施する(成績評価には含めない)。	

# 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部 授業科目名 <p style="text-align: center;">整形外科学</p>	学年	2	開講区分	後期	担当教員 先生			
	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることができるよう運動器疾患の診断・治療・後療法・予防法について学習する。								
[到達目標] 各整形外科疾患を、症候・疾患別、頸部以下の各部位の疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。								
[使用教材、参考文献等] 標準整形外科学: 医学書院					[準備学習・時間外学習] できるだけ教科書を通読すること。授業の内容・小テストをしっかりと復習すること。			
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	胸椎・腰椎①			胸椎・腰椎に起こる疾患の病態を理解できる				
2	胸椎・腰椎②			胸椎・腰椎に起こる疾患の病態を理解できる				
3	股関節①			股関節に起こる疾患の病態を理解できる				
4	股関節②			股関節に起こる疾患の病態を理解できる				
5	膝関節①			膝関節に起こる疾患の病態を理解できる				
6	膝関節②			膝関節に起こる疾患の病態を理解できる				
7	足関節・足趾			足関節・足趾に起こる疾患の病態を理解できる				
8	外傷総論・軟部組織			骨・関節・軟部組織の外傷の一般的知識について理解できる				
9	骨折・脱臼①			身体各部に生じる骨折・脱臼の各論について理解できる				
10	骨折・脱臼②			身体各部に生じる骨折・脱臼の各論について理解できる				
11	脊椎・脊髄損傷			脊椎・脊髄損傷の病態を理解できる				
12	末梢神経損傷			末梢神経損傷の病態を理解できる				
13	スポーツ障害・外傷			スポーツにより引き起こされる、外傷・障害の病態を理解できる				
14	予備							
15	テスト・まとめ			テストにより効果判定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める				
[評価について] 評価は学則規定に準ずる。				[特記事項]				



# 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 理学療法士科Ⅱ部	<b>学年</b>	2	<b>開講区分</b>	後期	<b>担当教員</b> 渡辺 寛 先生			
<b>授業科目名</b>  神経内科学	<b>必修/選択</b>	必修	<b>授業形態</b>	講義	<b>時間数(単位)</b>	30 (2)	<b>授業回数</b>	15
<b>〔授業の学習内容と心構え〕</b> リハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)による神経内科学では、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患を中心にその病態と診断を理解し理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。								
<b>〔到達目標〕</b> 理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来ている。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。								
<b>〔使用教材、参考文献等〕</b> 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院				<b>〔準備学習・時間外学習〕</b> 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習			本科目の意義と概論を理解できる。				
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)			中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。				
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)			抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。				
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)			抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。				
5	神経学的診断法と評価			神経が鶴的診断と画像診断や各種検査法を理解できる。				
6	神経症候を学ぶ			意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。				
7	運動失調及び感覚障害を学ぶ			運動失調の評価から感覚障害の特徴を理解できる。				
8	錐体外路兆候・不随意運動			錐体外路兆候を把握し錐体外路の障害を理解できる。				
9	運動失調			高次脳機能障害における各症状について理解できる。				
10	感覚障害の特徴			感覚障害の分布と特徴を理解できる。				
11	高次脳機能障害(失語症)			言語機能障害の特徴と、診断を理解できる。				
12	高次脳機能障害(失認)			失認の概念と分類及びリハビリテーションを理解できる。				
13	高次脳機能障害(失行)			高次運動障害を理解できる。				
14	高次脳機能障害(記憶障害)			記憶と記憶障害を理解できる。				
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
<b>〔評価について〕</b> 評価は筆記試験で行い、評価は学則規定に準ずる。				<b>〔特記事項〕</b> 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 堀内 秀憲			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
運動療法学Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕 理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を現在も臨床業務を行っている教員が、理学療法を考え、行うなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。									
〔到達目標〕 理学療法の中で中核となる運動学の基本的な知識を習得し、説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 株式会社メジカルビュー 配布資料									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 末梢神経機能と運動療法			末梢神経障害が理解できる。 末梢神経障害に対する運動療法が理解できる。					
2	中枢神経機能と運動療法			中枢神経障害が理解できる。 中枢神経障害に対する運動療法が理解できる。					
3	運動学習と運動療法			運動学習について説明することができる					
4	呼吸機能と運動療法			呼吸機能と運動療法について説明することができる					
5	循環機能と運動療法			循環機能と運動療法について説明することができる					
6	代謝機能と運動療法			代謝機能と運動療法について説明することができる					
7	中間試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
8	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた			運動療法プログラム作成のための情報収集のしかたの大枠について知ることができる					
9	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた			運動療法プログラム作成のための情報収集を模擬的にすることができる					
10	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた			運動療法プログラム作成のための情報収集を模擬的にすることができる					
11	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた			運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかたを知ることができる					
12	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた			運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかたを知ることができる					
13	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた			運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかたを知ることができる					
14	期末試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
15	まとめ			運動療法に関する全般的な考えを深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験はレポートや小テスト、中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

## 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			鈴木広大																																																
授業科目名		疾患別理学療法学実習Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義 実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15																																																
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載)</p> <p>①整形外科疾患の病態を理解する          ②整形外科疾患の病態に対する適切な理学療法を学ぶ          ③与えられた疾患に対する医学療法を立案し実施できる様になる          総合病院勤務経験した教員から各疾患に対する理学療法士役割を学ぶ</p> <p>[到達目標]          整形外科疾患に対し適切な理学療法を立案出来るようになる</p> <p>[使用教材、参考文献等]      [準備学習・時間外学習]          シンプル理学療法学シリーズ          理学療法概論テキスト改訂第3版 (南江堂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>[授業概要]</th> <th>到達目標(できるようになること)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>変形性膝関節(TKA術後)に対する理学療法Ⅱ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>変形性股関節症(THA術後)に対する理学療法Ⅱ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>腰痛(椎管狭窄症)に対する理学療法</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>腰痛(椎間板ヘルニア)に対する理学療法</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>靭帯損傷(膝)に対する理学療法</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>下肢骨折に対する理学療法Ⅰ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>下肢骨折に対する理学療法Ⅱ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>上肢骨折に対する理学療法</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅰ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅱ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>下肢切断に対する理学療法</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅱ</td> <td>疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価について]          パワーポイント・標準整形外科その他</p> <p>[特記事項]          単位認定は課題レポートとする</p>											回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)	1	変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	2	変形性膝関節(TKA術後)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	3	変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	4	変形性股関節症(THA術後)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	5	腰痛(椎管狭窄症)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	6	腰痛(椎間板ヘルニア)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	7	靭帯損傷(膝)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	8	下肢骨折に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	9	下肢骨折に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	10	上肢骨折に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	11	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	12	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	13	下肢切断に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	14	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。	15	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)																																																								
1	変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
2	変形性膝関節(TKA術後)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
3	変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
4	変形性股関節症(THA術後)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
5	腰痛(椎管狭窄症)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
6	腰痛(椎間板ヘルニア)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
7	靭帯損傷(膝)に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
8	下肢骨折に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
9	下肢骨折に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
10	上肢骨折に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
11	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
12	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
13	下肢切断に対する理学療法	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
14	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								
15	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅱ	疾患に対して病態を理解し治療プログラムの実施ができる。																																																								

# 2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2年	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
臨床心理学											
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床心理士であり、自殺防止相談やリワークグループ運営、精神科デイケア職員としての経験がある講師である。人の心の在りようを理解するために、臨床心理学の様々な心理療法の知見について、体系的に学ぶ。 臨床心理学の知見を知識として理解させるのではなく、ワークを通して実体験として理解させ、より実際に役に立つものとして習得させる。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>臨床心理学の様々な心理療法を実体験を通して理解することで、患者さんがどのような心理状態にあるかを説明できるようにする。 このことで、ただ体の治療だけを目指すのではなく、患者さんがどのような心理的な辛さを抱えているかをイメージでき、治療の際の</p>											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
<p>専門職のための臨床心理学基礎</p>						<p>毎回、ホームワークを出し次回の授業がスムーズに進むようにする。 前回の学習内容の復習をし、その内容の小テストを行い、知識</p>					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	臨床心理学の概念。臨床心理学の誕生と歴史 理学療法士の臨床における臨床心理学の役割					臨床心理学の概要について説明でき、理学療法士が臨床で使える臨床心理学について説明できる					
2	精神分析学・精神分析療法理論の発生から発展の経緯及び防衛機制などの各項目の定義。実際の運営実態。					精神分析学の理論及び精神分析療法の歴史を説明でき、様々な概念を定義できる					
3	精神分析学から発展した理論と各項目の定義					分析心理学や、ゲシュタルト療法の理論や各項目の定義について理解し、説明できる					
4	家族療法の理論及び各項目の定義。 日本で生まれた療法の理論について説明する					家族療法の概念と運用が説明でき、森田療法や内観療法の理論と実際の運営について説明できる					
5	来談者中心療法の歴史と実際の運営についての理解とワークを通じた実体験による理解					来談者中心療法の理論と運営について、実際のワークを通して理解し、説明できる。					
6	行動療法の歴史と理論について説明する。					行動療法の理論と技法について実際のワークを通して理解し、説明できる。					
7	認知行動療法の歴史と理論について説明する。					認知行動療法の理論と技法について実際のワークを通して理解し、説明できる。					
8	中間テスト					中間テストにより学習内容の効果測定を行う					
9	中間テストの解説 心理検査の歴史及び理論と知能検査を説明する					心理検査の歴史及び理論と知能検査について定義できる					
10	パーソナリティに関する理論について理解する					パーソナリティについて説明できる					
11	発達の理論について概説し、一般的な発達理論とピアジェ、エリクソンの発達理論について説明する					ピアジェとエリクソンなどの発達理論を理解し、一般的な発達理論も定義できる					
12	記憶および学習理論について詳細に理解する					記憶および学習理論について身近な問題として理解し、説明できる					
13	臨床心理学総復習					これまで習った臨床心理学について、区別できそれぞれの定義を説明できる					
14	期末テスト					テストにより学習内容の効果測定を行う					
15	期末テスト解説 臨床心理学の重要点について理解する					臨床心理学で学習した事項を、日常生活や支援に役立つようになる					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
<p>評価については、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)と小テスト(20%)の合計により評価する。評価は、学則規定に準ずる</p>						<p>授業だけでなく、主体的に予習し知見の着実な定着を目指す。</p>					